



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 幻のシジミ 今年も大ぶり

大樹 生花苗沼で1日限定漁

【大樹】町内の生花苗沼（オイカマナイト）で13日、1日限りのヤマトシジミ漁が行われた。大樹漁協



霧が立ちこめる生花苗沼でのシジミ漁

は資源保護のため漁を年1日に限定していることから、近年は「幻のシジミ」とされ人気という。

同沼は太平洋に近く海水と淡水が混じる汽水湖で、栄養分が豊富でシジミが大きく育つのが特徴。13日は午前4時すぎから、事前に水位を下げた沼に胴長姿の漁業者約80人が入り、直径約5センチのシジミを泥の中から手作業で掘り出した。漁業者は「だしがたっぷり出るのでみそ汁や炊き込みご飯に」と勧める。

同漁協は汽水湖の河口付近に集積する稚貝を沼の全域に移す取り組みも行っており、大樹漁協の伊藤浩一専務理事は「シジミ漁を続けたい」。13日は同漁協や十勝総合振興局、広尾署が密漁防止を訴える活動を行った。（金谷育生）



手作業で泥の中から掘り出されたシジミ  
＝13日午前7時50分ごろ

2022年7月14日（木）朝刊 帯広・十勝版 17ページ(記事は再編集しています)

- ①写真にある生花苗沼は、北海道のどの市町村にありますか。
- ②生花苗沼でとれるシジミは直径5センチと大きいのが特徴です。生花苗沼でシジミが大きく育つ理由を、記事中の言葉を使って書きましょう。
- ③生花苗沼のシジミが「幻のシジミ」とされているのは、なぜでしょうか。